

第1回幹事会での討議内容

幹事会は、座長の斎藤潮東京工業大学教授をはじめ、学識経験者、地元の代表及び行政関係者で構成し、防災を基本としつつ地域的・社会的ニーズに対応した魅力的な海岸を創出するための基本計画(案)の策定に向けての討議を行いました。

今後の検討内容と平成13・14年度の委員会で確認されている整備案の説明を事務局より行うとともに、現在進められている周辺事業の整備状況について大分県、別府市、国より説明しました。

討議では、各委員から「今まで、消波ブロックを入れることで災害時の安全を確保することが大事

であったが、環境や利用に関する次の50年のことを考えなければならない。」「漂着ゴミの処理など、完成後の維持管理を含めて考えるべきである。」「水質保全や水産協調に配慮することが大切であり、またスパビーチやマリーナとの連携も配慮するする必要がある。」などの意見が出されました。

以上、第1回目の幹事会では、これまでの検討内容と今後の検討に対する方向性について確認しました。

今後はワークショップでの市民の皆様方からの意見を反映させながら基本計画(案)の策定作業を進めて行く予定です。

別府海岸の空間構造について

第1回幹事会の冒頭では、国土交通省国土技術政策総合研究所の上島室長から、別府海岸の空間構造についての研究成果が報告されました。

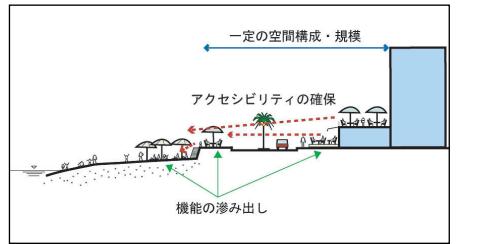
上島室長は、海岸をよく利用し、生活と海岸の関係が深い地域で発達している海岸への縦の街路の例を挙げ、別府海岸沿いの土地利用と過去の海岸利用



「郊外型の景観=均質な景観」が続く国道10号線



海岸に続く縦の路地が発達した「浜脇」と大区画の「石垣」



海岸と都市の一体的な整備の観点

委員会・幹事会名簿

【委員会】	【幹事会】
◎小島 治幸 大塚 利男 小方 昌勝 小川 雅代 斎藤 潮 佐藤 誠治 庄野 泰子 千壽 健夫 田中 健司 津田 武久 櫛田 操 逸見 泰久 松井 誠一 三ヶ尻 正友 渡辺 浩志	◎斎藤 潮 安藤 康一 上島 顯司 小田 勝也 小出 英治 後藤 ミツノ 下迫 健一郎 庄司 健作 菅 建一 玉井 廣孝 畠中 幸保 浜野 龍夫 牧野 哲朗 松岡 真一 山川 浩平
九州共立大学 工学部土木工学科 教授 別府市 助役 立命館アジア太平洋大学 教授 別府温泉女将の会 理事長 大分大学 工学部 福祉環境工学科 教授 音環境デザイナー 別府市観光協会 会長 別府市自治会北地区支部長 別府商工会議所 会頭 日本文理大学 工学部 建設都市工学科 教授 熊本大学 沿岸域環境科学教育研究センター 教授 九州大学 農業研究院 動物資源科学部門 教授 大分県漁業協同組合 別府支店 運営委員長 大分県土木建築部長	東京工業大学 大学院 社会理工学研究科 教授 大分県 別府土木事務所 所長 国土交通省 国土技術政策総合研究所 空港研究部 空港ターミナル研究室 室長 国土交通省 国土技術政策総合研究所 沿岸海洋研究部 沿岸防災研究室 室長 NPO別府マリンスクウェア 理事 別府市地域婦人連合会 会長 (独)港湾空港技術研究所 海洋・水工部 耐波研究室 室長 大分県 土木建築部 港湾課 課長 NPO別府八湯トラスト 代表理事 別府港振興連絡協議会 会長 大分県漁業協同組合 別府支店 運営副委員長 (独)水産大学校 生物生産学科 助教授 ホテル清風 会長 別府市 建設部 参事 別府市 観光経済部 参事
※◎印は組織の委員長 敬称略・50音順	※◎印は組織の座長 敬称略・50音順

(国土交通省関係者)
田所 篤博 国土交通省 港湾局 海岸・防災課 海岸企画官
戸田 和彦 国土交通省 九州地方整備局 港湾空港部長

お知らせ

第2回ワークショップを右記の要領で開催致します。当日は一緒に現地を歩いた後、いくつかのグループで意見をまとめ、発表して頂くことを予定しております。歩きやすい服装でお集まり下さい。

【第2回ワークショップの開催予定】

日 時：12月5日(日曜日) 15:00～18:00

集合場所：ホテル清風 2Fロビー

※別府港海岸の整備に関する情報は下記別府港湾・空港整備事務所ホームページに随時掲載していきます。是非ご覧下さい。
<http://www.beppu-port.go.jp/>

別府里浜づくり新聞

第1号
平成16年
11月2日

別府里浜づくり新聞の刊行にあたって

国土交通省 別府港湾・空港整備事務所では、別府港海岸整備事業「北浜地区2」の整備計画の検討を開始致しました。別府港海岸整備事業は、北浜、餅ヶ浜及び上人ヶ浜の3地区からなり、延長約2kmを整備する国の高潮対策事業として平成13年度に事業採択されたものです。本事業は、市民の皆様からの意見を取り入れる住民参加型事業としてスタートしており、平成14年度には、3地区でワークショップを開催し、基本的な考え方や整備の方向性等をとりまとめました。その後、餅ヶ浜地区においては、ワークショップを重ねなどの手続きを経て整備計画を策定し、平成16年度から現地工事に着手しております。

今回、次の整備地区である「北浜地区2」の整備計画の策定にあたり、広く市民の皆様に御参画頂くとともに、各分野からの専門的知見を加えた総合的な検討を行うため「ワークショップ」及び「検討委員会」、「幹事会」を開催することと致しました。「別府里浜づくり新聞」はこうした検討体制のもと、情報の公開と共有を目的に刊行するものであります。

海辺は多様な生物が生息・生育する空間であり、人々の生活の場でもあります。「別府里浜づくり新聞」が、多くの人々が参画し、地域の共有財産としての海辺を考えていく際の一助となれば幸いです。



第1回別府港海岸整備検討委員会 幹事会を開催しました

平成16年10月19日(火)に北浜旅館街にある「竹の井ホテル」で第1回別府港海岸検討委員会の幹事会(座長：斎藤潮東京工業大学教授)を開催しました。事務局から調査内容と調査の進め方(検討体制)、平成13、14年度に検討された北浜地区の整備計画案とその特徴(整備計画4案の概要)を提示するとともに、周辺の関連事業について各整備主体から報告を行いました。委員各位には現時点までの検討内容や今後の検討に対する方向性について議論・確認を行なっていただきました。

検討体制

住民、専門家、行政が一緒になって検討を行うため、「別府港湾・空港整備事務所」が実施主体となり、「検討委員会」「幹事会」「ワークショップ」の3つを組織して、検討を行います。

○ワークショップ

幹事会参加の住民代表をリーダーとした住民主体で意見交換を行い、住民代表から幹事会で提案を行って頂きます。

○幹事会

委員会の下部組織として住民代表を加えたメンバーで現状認識を共有し、実質的な討議を行い、基本計画(案)を作成します。

○検討委員会

専門的見地から基本計画(案)を総合的に検討・評価します。

ワークショップ

- ・行政との情報の共有化
- ・計画づくりへの住民参加
- ・議論による住民意見の醸成
- ・アンケート調査

住民代表による
検討内容の報告

幹事会

- ・現状認識の共有(住民/行政/学識者)
- ・基本計画(案)の作成

住民代表者が委員として参画

検討委員会

- ・基本計画(案)について検討
- ・基本計画(案)妥当性の確認

シンポジウム開催

- ・計画(案)の公表

提案・意見
→ 計画決定

別府港湾・空港整備事務所

- ・全体総括
- ・計画づくりの枠組みの検討
- ・基本計画(案)のとりまとめ
- ・必要な調査の実施
- ・計画内容の検討
- ・各種会議の開催、記録
- ・計画の進行管理

情報提供
会場提供
専門家等派遣
委員会議事報告

情報発信
情報共有
意見収集
→ 広報活動

【事務所HPの活用】

- ・ニュース & トピックスによる情報提供

【里浜づくり新聞の作成】

- ・情報提供・開示

検討体制

※検討委員会、幹事会の名簿はP4を参照のこと。

検討のスケジュール

ワークショップは平成16年度中に4回、平成17年度に1回の計5回を予定しています。ワークショップでの検討結果は幹事会で報告され、計2回の検討委員会で技術的かつ総合的に検討します。これらの検討結果は平成17年度の最後にシンポジウムを開催し、市民へ報告することを予定しています。

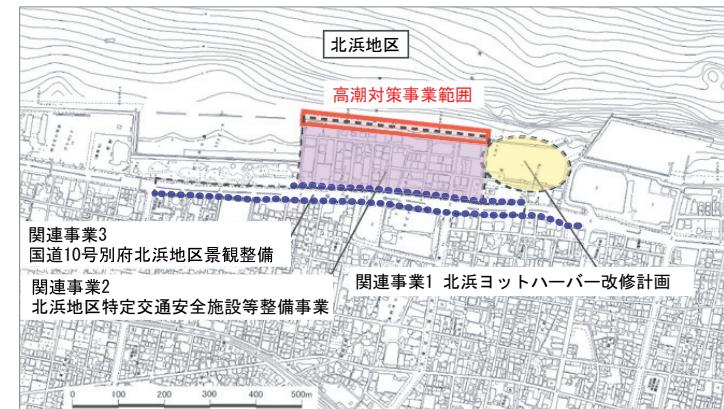
項目	平成16年度						平成17年度						
	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ワークショップ			▲ 第1回(11/2)	▲ 第2回(12/5)	▲ 第3回(1月下旬)		▲ 第4回(3月下旬)		▲ 第5回(7月上旬)		▲ 市民報告会(シボジウム)		
幹事会		■ 第1回(10/19)	■ 第2回(12月中旬)		■ 第3回(3月上旬)		■ 第4回(6月上旬)						
検討委員会					● 第1回(2月下旬)					● 第2回(8月中旬)			
					幹事会で作成した基本計画(案)を 2案程度提案し、確認を得る。					幹事会で作成した最終(案)を 提案し、確認を得る。			

別府港海岸（北浜地区）整備計画関連事業の概要

現在、北浜地区では海岸整備計画（高潮対策事業）の他に、3つの事業が行われています。

海岸の整備において事業の対象となるのは海岸部分のみですが、その内容は、海岸だけでなく後背の市街地や道路、隣接する施設とのつながりを考えて進められなければいけません。北浜地区の海岸周辺の空間がどのように変わろうとしているのか、以下に関連する周辺事業の概要を紹介します。

各事業の対象地区



【関連事業1 北浜ヨットハーバー改修計画】

別府港港湾区域内のプレジャーボートの増加や不法係留船対策として、北浜ヨットハーバーを沖へ拡大し、係留設備を整備する。また、平成20年の国民体育大会のセーリング競技開催地に予定されています。（事業期間：平成15年度～平成20年度）

現在の北浜ヨットハーバー



【関連事業2 北浜地区特定交通安全施設等整備事業】

北浜地区的道路を、地域性や景観に配慮した街並みづくりと、安全で快適な歩車共存道路づくりと、バリアフリーに配慮した歩道づくりが進められています。

（事業期間：平成13年度～平成17年度）



【関連事業3 国道10号別府北浜地区景観整備】

一般国道10号の別府市北浜地区は、別府市中心部の別府駅前に位置しており、観光客を中心とした歩行者及び自転車の利用者数が多い区間です。このため、安全で快適な歩行空間の確保や街並み景観向上等の観点から、老朽化した歩道部（インターロッキング）の更新やバリアフリー化、JIS基準に基づく視覚障害者誘導ブロックの設置等が行われています。

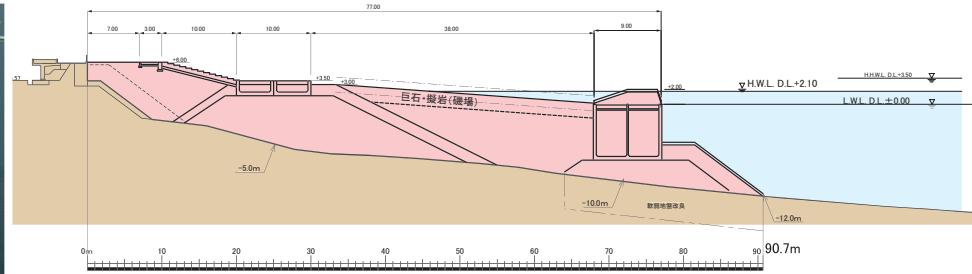


(左)埋め込み平板案 (右)舗装整備デザイン案

整備計画4案の概要

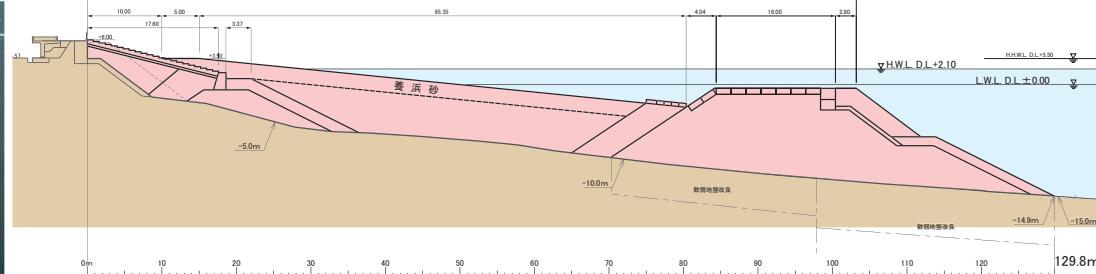
北浜地区的海岸整備計画の構想案は、以下に示すA～C'案の4案で、各案の特徴を示します。

— A案 —



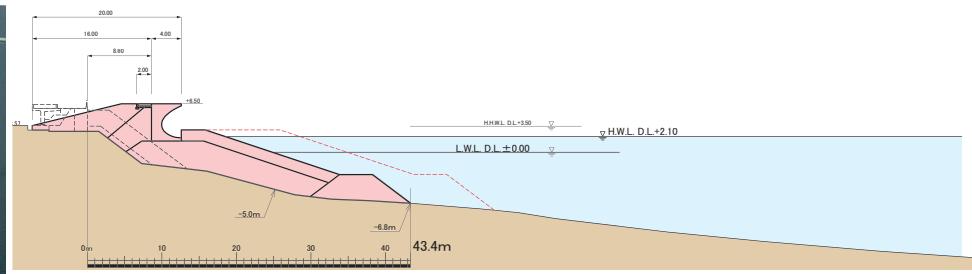
大規模な磯浜は、生物観察などの親水体験を可能にします。しかし、急深な地形ゆえに整備に多額の費用を要します。また、漂着ゴミの処理や、磯場を利用する際の安全確保といった維持管理上の対策が必要となります。

— B案 —



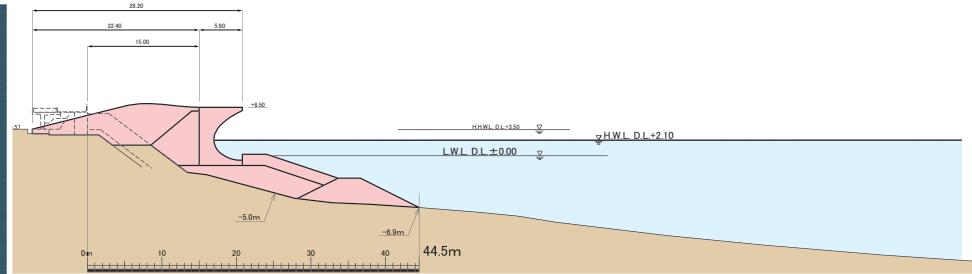
大規模な砂浜は、ビーチレクリエーションなどの親水体験を可能にします。しかし、急深な地形ゆえに整備に多額の費用を要します。また、漂着ゴミの処理や、沖合が急深になるため、利用者の安全確保といった維持管理上の対策が必要となります。

— C案 —



プロムナードにより背後の空間との一体的な利用が可能なるほか、小規模ですが磯浜では、生物観察などの親水体験も考えられます。また、比較的浅い水域での工事になるため整備費用も比較的安くなります。しかし、漂着ゴミの処理や、磯場を利用する人の安全確保といった維持管理上の対策が必要となります。

— C'案 —



海に直接ふれる空間はありませんが、プロムナードにより海への眺望を楽しむこと、背後の空間と一体的な利用が可能です。比較的浅い水域での工事になるため整備費用も比較的安くなり、また、前面海域の利用を想定していないことから、維持管理や、安全対策が比較的容易になると考えられます。